

第 19 回廿日市市産業振興審議会 議事録(案)

日 時： 令和 7 年 9 月 29 日(月)10:00～12:00

場 所： 廿日市市役所 3 階 政策審議室

出席者

(委員)

- 県立広島大学 副学長 上水流委員(本審議会 会長)
- 広島修道大学商学部 教授 富川委員(副会長)
- 広島工業大学 副学長 林委員
- 廿日市商工会議所 会頭 澁谷委員
- 佐伯商工会 会長 夏原委員
- 大野町商工会 会長 田畠委員
- 宮島町商工会 会長 松本委員
- ひろしま農業協同組合 佐伯中央地域 統括長 野村委員
- 一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事会長 塩田委員
- 廿日市市金融懇談会 幹事支店長(広島銀行廿日市支店 支店長)末次委員
- 中国経済産業局 総務企画部 企画担当課長 中野委員
- 廿日市公共職業安定所 所長 地主委員
- 廿日市市 副市長 村上委員

※一般社団法人宮島観光協会 中村委員、広島県商工労働局地域経済支援担当部長 石濱委員の 2 名は欠席

(事務局)

- 廿日市市 産業部長
- 廿日市市 産業部 産業振興課長
- 廿日市市 産業部 農林水産課長
- 廿日市市 産業部 観光課長
- 廿日市市 産業部 産業振興課 産業企画係 係長
- 廿日市市 産業部 産業振興課 産業企画係 主任
- 廿日市市 産業部 産業振興課 産業企画係 主任主事

1.開会

開会あいさつ、委員紹介、資料説明(事務局：産業振興課長)(省略)

会長挨拶(上水流会長)

- ・皆さま、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。前回は活発な議論となりまして、様々なご意見を頂戴いたしました。そのご意見を踏まえたうえで、今回は新たな案をお持ちいただいております。修正内容も含めて審議をできればと思っています。前回と同様に様々なご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2.議題

議題(1)次期産業振興ビジョンの骨子案

上水流会長

- ・それではこれより議題(1)次期産業振興ビジョンの骨子案に入ります。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

(産業振興係長より資料説明：記録省略)

上水流会長

- ・議題(1)につきましては説明で終わることですので、次の議題に移ります。

議題(2)次期廿日市市産業振興ビジョンの施策体系の修正

上水流会長

- ・続いて、議題(2)次期廿日市市産業振興ビジョンの施策体系の修正に入りたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

事務局

(産業振興係長より資料説明：記録省略)

上水流会長

- ・ありがとうございました。前回の私たちのご意見を踏まえて修正等をしていただいた案になっております。ビジョン編に関わる部分について、前回ご発言いただいた委員の

方々で、どのように反映・修正されているのかも含めて、ご意見やご質問がありましたら、お願いしたいと思います。

- ・キーワード・方向性は、前回案の「人材を呼び込み、育み、定着させるまち」というような形で終わるのではなく、「地域の魅力に惹かれ、自分らしく働き、成長できている」とあるように、どのような状態になっているのかという状況が説明されているような文言に変わってきていると思います。
- ・施策部分も前回案と比べると文言が具体的になっています。例えば、2-1「企業の留置・誘致」について、具体的にどのようなことをするのが見えてきています。また、前回案の産業集積の維持強化についても、持続的にさせる、支援をするというように、文言としてより開かれた形で書かれていると思います。そのような形で全体的に修正をしていただいている形となっていますが、表現を変えてほしい、自分の意見とは違うなど、委員の方のご意見はございますでしょうか。

富川委員

- ・施策 1-2「多様な人材の活躍と働き方改革の推進」の言葉について、多様な人材の活躍の「推進」という意味だと思いますが、活躍を推進するのではなく、活躍を「促進」するという表現が正しいのではないのでしょうか。推進という言葉は、例えば、施策や制度などの推進では意味合いとして正しいですが、具体的な取り組み案を見て、この表現で良いのかと疑問に思います。

上水流会長

- ・施策の内容ではなく、文言として、「多様な人材の活躍の促進と働き方改革の推進」であれば問題ないとお考えでしょうか。

富川委員

- ・その通りです。

上水流会長

- ・分かりました。他にいかがでしょうか。特にご意見がなければご承認いただいたということで、次に進めたいと思いますが宜しいでしょうか。では、一部文言を修正したということで進めていきたいと思います。

議題(3)次期産業振興ビジョンの個別施策および具体的取り組み案(資料 4)

上水流会長

- ・続きまして、議題(3)次期産業振興ビジョンの個別施策および具体的取り組み案(資料 4)に移りたいと思います。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

- ・(産業振興課係長より資料説明：記録省略)

上水流会長

- ・ありがとうございました。それでは、委員の皆様からご意見・ご質問等をお願いしたいと思います。
- ・事務局の方に質問なのですが、具体的取り組みに関して、今後追加されていく可能性があるのか、もしくは基本的には資料4に記載されているものを今後やっていくのか、どちらでしょうか。

事務局

- ・資料4で記載したもの以外も取り組んでいく可能性があります。現段階で、事務局側で考えられた取り組みを案として記載しています。

上水流会長

- ・委員の中から「こういうこともやったら良いのではないか」というものがあれば、今後事務局側で検討をしてもらい、修正されるという理解で宜しいでしょうか。

事務局

- ・ご認識の通りです。

上水流会長

- ・具体的取り組み等に関しまして、具体的な案、あるいはより良い方向性などについて出していいただければと思います。よろしくお願いいたします。

村上委員

- ・この産業振興ビジョンには脱炭素などの環境面の表現が全くありません。実際に、ゼロカーボンに向けて市としても導入支援を行っており、また長い目で見るとそういった環境は充実させていかなければならないと思うので、2「事業者」のところに脱炭素関連の記載を増やしていったら良いのではないのでしょうか。

上水流会長

- ・ありがとうございます。そういったことは村上委員のご指摘も受けまして必要かと思えますので、ぜひ加えていただければと思います。
- ・私の方から、2点気になったことを申し上げます。
- ・③「人材の育成支援」の具体的取り組み(案)に関して、デジタル人材が足りないことや活用していかなければならないことはよく分かるものの、デジタル人材のみではなく経

営的な視点を持った人材の育成など、様々な人材の育成が必要なのではないかと思います。この点についてご意見があれば仰っていただきたく思います。

- ・ 前回の審議会の意見では廿日市のブランド化が大きな課題であると出ていました。たしかに、「木のまちはつかいち」としてのブランド深化や地産地消で認知度の向上などを図るといった、ブランドを作っていくことや見直すような案があるものの、一方で廿日市というブランドを作るには大きな視点で様々な産業を組み合わせながら作っていかねばならないと思います。この個別施策と具体的取り組み案を見たときに、廿日市というブランドをどこが作るのかと思いました。世界的に知られた宮島という資源があるのは事実であることから、廿日市というブランドに上手に結び付けて展開をしていくことが必要だと思います。前回審議会の課題で廿日市ブランドの確立があったので、そこを所掌する部署に関する文言や考えがあっても良いのではないのでしょうか。
- ・ それ以外で、委員の皆様でも感じられたところがあるかと思いますのでご意見を頂戴できればと思います。

中野委員

- ・ 事業者 2-1②「企業誘致の推進」の具体的取り組みに関して、「オフィス系企業の立地を促進する」と記載されています。オフィス系企業とは情報企業やソフトウェア、サービス業であることは知っている人ならば分かりますけれども、その表現であるとイメージが湧かない場合もあります。具体的に書いていただきたいと思います。
- ・ 地域 3-3「新たな関係人口の創出」の具体的取り組みに関して、前回の審議会では私の意見として、いかに域外から廿日市市に人を呼び込んでくるかといったことを申し上げました。廿日市市の外から入ってくる人々との掛け合わせにより、新しい発想や産業創出につながってくるということで、外部人材の活躍の場が施策として必要であると感じています。
- ・ また、この取り組みの中の「社会貢献・持続可能性を重視した企業との連携」において、自治体では解決できない課題について、社会貢献を意識した企業と協働して解決を図るとありますが、そうした企業が市外から来てもらうにあたって、廿日市市がどういった課題を抱えているかということを発信していく必要があると思います。
- ・ 空き店舗、チャレンジスペースの活用について、島根県江津市では、民間の方を集めて域外から地域の様々なテーマについて解決を図る江津ビジネスプランコンテスト(Go-Con)を実施しています。このコンテストでは、良い提案に関しては表彰をしてお金を出しています。また、移住をする人も増えてきているとのことです。実際に、このコンテストに関連して、地元自治体が無人駅の活用などを行い、外部者が住みやすい環境を整備していることで、新しいビジネスや発想が生まれています。例えば、無人駅を活用したクラフトビール工場があります。廿日市市でも、場所の提供のほか、特区制度の申請の協力も含めて、一緒にやっていくことで外部から人が集まるものと思います。

上水流会長

- ・2点目の外部人材の活躍に関して、追加で議論をさせていただきたいと思います。地域3-3「新たな関係人口の創出」の具体的取り組みとして、外部人材の活躍の部分が弱いと思っています。たしかに、多様な人材の受け入れに対する理解促進と活用機運の醸成を図ると書いてあるので、そのうち「多様な人材」というところで外部のことも含んでいるものと思いました。ただ、中野委員のご意見を受けて外部人材の活躍に関して文言として厚めに書くことを検討しても良いかと思います。

林委員

- ・1-1②「地元企業就職支援」に関して、案に記載の通り、若い人に廿日市の魅力を知ってもらうために接点を作っていく必要があります。普段、学生と接していて、彼らが広島で就職するか、東京などに行くかという際に、地元の情報が不足しており、東京などの方が魅力的に見えることから、そちらに行くという事例があります。その際に保護者の方が地元はどういった企業があるのかをご存じないことが多いです。例えば、「自分の子どもが地元での就職に関する情報がないと言っている。たしかに、地元には魅力的な企業がないから、子どもが言うように東京に行かせる」といったケースがあります。したがって、若者だけではなく、保護者の方に向けても廿日市の特徴を上手く伝えていけると、子どもにも紹介できることなどが言えると思います。こうしたことが具体的な取り組みの中に入ってくるとより充実するのではないのでしょうか。新しく入れていただいた「地域の魅力に惹かれ、自分らしく働き、成長できている」の「自分らしく働き」といった文言は、かなり刺さるキーワードだと思いますので、そういった点を充実させていければと思います。

上水流会長

- ・たしかに、方向性1「人」には市民向けに、といったことも書かれているので、林委員のおっしゃるように、ターゲットの中に保護者も視野に入れながらということだと思います。また、たしかに私のゼミ生を見ていると自分らしく働くという意識が高い学生が多いという印象を持っています。
- ・他にいかがでしょうか。

澁谷委員

- ・先週、冠高原に視察に行きました。実際に、4万2000年前の旧石器時代の石器群を見て、歴史が変わることがあるものだ、ものすごい出来事であると実感しました。せっかくそういった資源があるのならば活用するために、廿日市市が宮島だけではなく、全てのエリアの回遊促進を図り、楽しんでもらう・勉強ができるような方法を考えたら良いと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。たしかに、冠遺跡はホットな話題です。

澁谷委員

- ・一緒に冠高原に視察に行った廿日市商工会議所のメンバーからは、ここを公園にして歴史を勉強できるエリアにしたら面白いといった考えが出ていました。また、すぐ近くには SAKURAO YOSHIWA WHISKY PARK の竣工も予定されていることから、吉和エリアとしての活性化ができるのではないかと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。たしかに、重要な観光資源になり得るものであると感じています。他に何か委員の皆様からご意見があれば伺いたいと思います。

夏原委員

- ・「第1回全国夏いちご選手権」で、吉和ラフレーズ代表の栗田直樹さんの「冠苺(かんむりいちご)」が最高金賞を受賞しました。イチゴ生産者におかれましては、観光分野での新規事業者の参入がごございます。観光事業として、佐伯商工会の会員農家さんがイチゴ狩りなど取り組んでおります。佐伯商工会といたしまして、会員農家及び新規事業者との連携を進め、下支えをし観光事業の拡大強化を進めていこうと、話が出ております。
- ・また、FM はつかいちで番組を1つ持ちました。パーソナリティーは青年部長でもある吉和ラフレーズ代表の栗田直樹さんです。あとは商工会の会員や地域の方々の方々に出演していただきます。行政の方々にも参加してもらえるので、その場を使った発信もできる形になっています。

上水流会長

- ・情報提供ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

澁谷委員

- ・さきほど、廿日市のブランド化という話が出ていましたが、廿日市の名前が浸透していないと思います。これについて、何とかならないでしょうか。宮島が広島市にあると思っている人も多いです。廿日市という名前がブランド化されていないということが大きな問題ではないかと思います。廿日市ブランドが浸透できるような方法を模索したら良いと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。例えば、知事がレモンに注目しているように、広島とレモンの新たな結びつきがあります。このことからレモンと言えば広島という雰囲気も出てきま

したが、廿日市市でも同様に「〇〇と言えば廿日市」というような雰囲気在全国的に、少なくとも西日本で知られるような展開があると良いかと思います。

- ・その他いかがでしょうか。

林委員

- ・地域の課題を全体で共有できていない課題がありますが、異業種交流会では、例えばイチゴの売り出しの方法をテーマとして様々な方が集まってアイデアを共有する、そして何か事業に関わっていくことのできる機会となっています。前回の開催では、様々な結びつきができたとの報告もあるので、注目しないといけないと感じています。

上水流会長

- ・ありがとうございます。先ほどの林委員のご意見のように、こういうことが大事なのはといったことを発言していただければ、改めて事務局の方で整理をしていただけるものと思います。したがって、委員の皆様からご意見を一通りいただいたうえで議論を閉じたいと思います。

林委員

- ・私の今の立場でいうと、大学も地域に開かれていかなければならないと考えています。一方で敷居の高さから声をかけづらいという声を聞いております。その点については、どうやって解決していかなければいけないのかと常に思っています。審議会の議論では大学の話がいくつか出てきているところもあるので、具体的な施策には、様々なところで関わっていけるよう貢献していければと思います。

澁谷委員

- ・廿日市商工会議所は実際に異業種交流会を開催しています。人数が制限されるため、どなたでもという訳ではありませんが、名刺交換をして自分たちの企業をアピールすることや新商品の発表の機会となっています。ただ、企業へ浸透していないことが問題点であると思います。また、県立宮島工業高校や広島工業大学、修道大学へのアピールはしていますが、地元企業の認知度が低いことが問題です。廿日市のブランド化の話にも絡むと思いますが、「廿日市の企業に行くともっと楽しいことが起こる」といった雰囲気を作らないと若い人は来ないのではないかという気がします。

田嶋委員

- ・大野町商工会でも異業種交流会を開催しているものの、40～50人程度と規模が小さく、また大きな企業と地元の中小・零細企業との交流があまり生まれていません。つながりがあると変わってくるのではないかと思います。

- ・若年層の就職に関しては、多くの方は都会に向くのかなと思います。利便性や娯楽が問題なのではないでしょうか。

野村委員

- ・1-1①「地元企業の魅力発信支援」について、地元企業というよりも街の魅力が重要であると思います。
- ・観光客の回遊性向上について、広島県と言えれば世界的に見ても平和記念公園と厳島神社だと思いますが、広島市ならば、本通りなど散策できる場所があるものの、廿日市市には宮島以外の魅力ある目的地がないように感じます。例えば、瀬戸内の多くの離島には観光コンテンツとしてアートが存在しており、多くの人が周遊しているとのこと。人が多いことから消費者単価が高くなっているようであり、ブランディングや観光コンテンツが地方観光のカギになると思います。このことから平良の造成地には期待をしています。
- ・また、産業について、けん玉はコンテンツとして弱いと感じます。

末次委員

- ・宮島は平和記念公園と合わせて外国人が非常に来られている一方で、それに見合う受け入れ態勢ができていないのではないかと考えています。資料4の3-1①には「観光消費の拡大」とありますが、外国人の滞在時間を長く、お金を落としてもらえるよう、DXとの連携の視点もありながらも、平良の造成地や SAKURAO YOSHIWA WHISKY PARK の計画も踏まえつつ、彼らをターゲットにしてお金を落としてもらえるような街づくりを産業振興ビジョンに入れ込んでいかれたら良いと思います。
- ・子育て世代に関しては、住宅整備を行うことで、土地も比較的安く、非常に良い環境であることから人口がもっと増えていくのではないのでしょうか。また、若い人に対して廿日市市は広島市内よりも安い家賃で住めることもあるため、人口の増加があり得ると思います。

中野委員

- ・廿日市市外とのネットワークについて、面的に観光できればと感じています。例えば、広島市の原爆関連や廿日市市の宮島、大竹市の下瀬美術館や岩国方面へ面的に発信をしていくことが考えられます。
- ・また伝統工芸・伝統産業に関して、けん玉であれば、廿日市市単独ではなく、廿日市以外でけん玉が有名な場所と一緒に発信していくなどのことを行えば、2倍3倍と発信するパワーになると思います。さらに、宮島であればフランスのモンサンミッシェルなどとの外とのつながりを発信していくことで認知度の向上やブランド化につながると思います。このような外とのネットワークというのも産業振興ビジョンに記載できるのであれば良いと思います。

地主委員

- ・ 1-1②「地元企業就職支援」の具体的取り組みとして、就職ガイダンスの開催とありますが、今年度のガイダンスは子育て世代とシニア世代の方を組み合わせたものを考えています。潜在的な求職者として、ハローワークに申し込みをしていない方でも仕事を探している方もいらっしゃるかと思っています。そういった方に向けてシニア世代と子育て世代を組み合わせた働き方として、例えば子どもが幼稚園や小学校に行っている間に働きたいとなれば朝や夕方の時間は敬遠する傾向があります。一方で、シニア世代は朝に強いという傾向があるかと思しますので、朝の時間はシニア世代に任せて、日中は子育て世代に、夕方はまたシニア世代に、というような組み合わせた働き方も有用かと思えます。それぞれの世代を組み合わせた上手な働き方を目指し、子育て世代・シニア世代の雇用に理解のある事業者を集めたガイダンスを 11 月に開催したいと考えています。
- ・ 広島県の魅力はスポーツが盛んな地域であることではないかと考えています。サッカーや野球のほか、インドアではバスケやバレーが挙げられます。廿日市市においても 2 軍のチームがあります。このことから、スポーツで観光客を呼び込めるのではないのでしょうか。プロ選手との交流のほか、特にスポーツ少年団に通っている子どもを持つ親世代が、親世代のヒーローであった OB の選手との交流などがあれば、地域の発展に繋がれるのではと思います。

塩田委員

- ・ 廿日市市というブランディングはもちろんではありますが、けん玉ミュージアムなど、いつでも競技ができるような木造の建物の整備を計画に盛り込んでいただくのはどうでしょうか。

松本委員

- ・ 宮島には外国人が相当増えています。外国人に対する事業者のマナーや牡蠣の販売などの衛生面の講習会を開こうと模索しています。地域内でのルールを作っていきたいと考えています。また、派遣制度を活用して、講師を入れて商店街やホテルの接客の研修をやっていけたらと思います。
- ・ また、SDGs について、宮島島内のタクシーは電気自動車に変わってきているなど、そういったことも推進していければと考えています。宮島には車が通るスペースがないので、メインとなる商店街以外の道の整備などが先行するものかとは思いますが、先進観光地として SDGs の発展をさせていきたいと考えています。

夏原委員

- ・ 佐伯・吉和地域は市内では少子高齢化や人口減少の 1 丁目 1 番地の立ち位置で、シャッター通りなどの問題があります。PTA 会長や小学校・中学校では身をもってその問題を

感じていて様々な意見が出てきています。商工会としてもこうした問題に対して協力をし、地域一体となってまちづくりを図っていきたいと思います。

富川委員

- ・産業振興というテーマで委員の皆様と協議をしていますが、計画案では二次産業と三次産業に偏っているのではないかと感じています。観光とは地域資源を活かさなければならぬものなので、たしかに二次資源や三次資源を活かした観光という形では今回の審議会で意見を発言したものの、しかし一次資源が欠けていたのではないかと思います。宮島は、牡蠣や穴子などの食事やお土産が一次産業に依存した部分があると思います。審議会ではそうした部分を見直す必要があったと思います。一次産業の資源を活かしてこそ、商品開発や消費拡大、誘客もできるのではないのでしょうか。
- ・観光に係る細かいビジョンについては観光振興計画が同時に策定中ということで、そちらとの整合性を取る必要があります。
- ・また、私が大学にいることから、学生と色々話していると、「広島に残りたい」という学生や、「岡山の学生が就職は広島でしたい」という声を聞いています。必ず、廿日市にUターンするメリット・魅力があるはずなので、人材誘致の際には残りたい、就職したいという学生らに廿日市の魅力を引き出して、前面に出す形が必要ではないのでしょうか。

上水流会長

- ・ありがとうございます。3-2①「地産地消による域内循環の強化」において一次産品に関する記述はあるものの、たしかに、一次産業に関する記述自体は富川委員のご指摘を受けて、薄いものであると感じました。一次産業をどのように大切に育てていくのかといった視点はあるべきかと思いました。
- ・また、インバウンドの問題が出てきましたが、他言語で地域資源の説明をできる人がいないなど、外国から来た人に対応できる人材がいない問題が挙げられます。地方に行っても不満足のまま帰国してしまうことが指摘されています。インバウンド対応ができる人材の育成は非常に重要になってくるのではないのでしょうか。そういったことも視野に入れた人材育成を考えても良いのではないのでしょうか。
- ・けん玉も話題に上がっていました。けん玉の競技だけではなく、医療や福祉に結び付けられることはできないのでしょうか。けん玉の競技人口の拡大や廿日市の特徴など競技性以外のものと結び付けられるようなことが考えられると思います。また、このけん玉と福祉のように何かと何かの組み合わせを考えたら良いと思っています。例えば、異業種交流とビールフェスタのように、堅い印象を和らげる、面白いものを作っていくことも大事なのではないのでしょうか。
- ・また、委員の方から、宮島とSDGsの話が出ていましたが、長崎県五島市はレンタカーには電気自動車が非常に多い地域となっています。この事例を踏まえると、宮島もカー

ボンニュートラルの話も踏まえながら、先端技術も組み合わせさせて観光できる場所として売っていくことも新たな宮島の在り方として検討できるのではないのでしょうか。

- ・委員の方からスポーツの魅力を活用する話も出ていました。広島県がスポーツを使った地域振興を考えていることから、県との連動も考えられると思います。
- ・若い人に向けた街づくりについては、市単独だけではなく、広島市の広域都市圏とも関連していくと考えられます。若い人に住んでいただくためには、若者向けの重点的な施策があっても良いのではないのでしょうか。また、中高生や大学生のやりたいことを費用対効果にとらわれずにやってみる体験をさせていくことが、将来的に彼らがUターンをする際の魅力になり得るのではないのでしょうか。こうしたことを若者世代の育成や地域への愛着という観点も含めて検討していただければ有難いと思っています。
- ・最後に、村上委員からよろしくお願いいたします。

村上委員

- ・近年では廿日市市は住みやすい・子育てしやすい街というブランドが、市近辺ではあるのではないのでしょうか。特に、広島市から移住された方が多いです。
- ・また、広島に就職したい人が地方の大学を選び、廿日市市の採用試験を受けにきています。近年では関東から入ってきて採用試験を受ける人はほとんど見かけなくなりました。そういった状況でどうやって街づくりを進めるかが大事ではないのでしょうか。
- ・採用試験の際に、「廿日市と聞いて何を思い浮かべますか」と聞くと冠苺の話が多かったようで、学生に刺さっていたように思います。廿日市のブランドは何かと組み合わせで頭に残っていくのではないのでしょうか。
- ・市内では新機能都市開発やホテルも開発中となっています。そのほか、カープの2軍の練習場の建て替えや SAKURAO YOSHIWA WHISKY PARK、冠遺跡もありまして、周遊促進など、エリアをどう管理するのかについて市として何らかを行わなければならないと思っています。吉和に魅力ができればはじめ、フルーツの町というイメージもある中で、そうしたことは活かしていきたいと思っています。
- ・産業が活性化することが学生へ魅力になり、また居住者にとっても自慢できる場所となり得ると考えます。この産業振興ビジョンをベースに他の計画との整合を取っていきたいと思います。
- ・けん玉に関しても、「木のまちはつかいち」の中でけん玉をどうPRしていくかも考えていかないといけません。これからそうした視点を含めて取り組んでいきたいと思っています。
- ・また、大学ともできれば連携をさせていただき、実際に検討も行っているところです。引き続きご協力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

3. 閉会

上水流会長

- ・以上ご意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。以上で本日の全ての議題は終了とさせていただきます。進行を事務局にお渡しいたします。

事務局(産業振興課長)

- ・本日、審議いただきました内容につきましては事務局内で整理させていただきましたのち、後日議事録等の配布により皆様に共有させていただきたいと思います。以上をもちまして第19回廿日市市産業振興審議会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。